

1. 平成27年7月～9月期の景気動向

今期のDI平均値は△25. 2ポイントで、前期(4～6月)の△23. 8ポイントから1. 4ポイントマイナスとなった。前期までは2期連続で回復傾向であったが、製造業、小売業で今期状況、来期見通しとも大幅なマイナスとなっている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 15 (△ 40) 	△ 47 (△ 20) 	△ 16 (△ 20) 	△ 37 (△ 21) 	△ 22 (13) 	△ 25 (0) 	△ 44 (△ 36) 	△ 46 (△ 16) 	△ 38 (△ 15) 	△ 14 (△ 30)
採算		△ 46 (△ 30) 	△ 46 (△ 40) 	△ 20 (△ 31) 	△ 28 (△ 27) 	△ 11 (△ 15) 	△ 11 (△ 13) 	△ 49 (△ 34) 	△ 38 (△ 25) 	△ 30 (△ 35) 	△ 25 (△ 35)
資金繰り		△ 46 (0) 	△ 31 (△ 40) 	△ 20 (△ 13) 	△ 30 (△ 15) 	△ 25 (△ 13) 	△ 13 (△ 25) 	△ 19 (△ 25) 	△ 26 (△ 20) 	△ 15 (△ 16) 	△ 25 (△ 21)
業況		△ 23 (△ 30) 	△ 46 (△ 40) 	△ 25 (△ 14) 	△ 33 (△ 24) 	△ 22 (△ 12) 	△ 11 (△ 14) 	△ 41 (△ 36) 	△ 40 (△ 22) 	△ 15 (△ 27) 	△ 19 (△ 29)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		製品ニーズの変化への対応		販売単価の低下		消費者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化	
	3位	請負単価の低下		製品(加工)単価の低下		仕入単価の上昇		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
業種別 コメント		売上、業況について若干の回復が見られたが、来期見通しについては全体的に厳しい状況である。資金繰りが、前期に比べ大きくマイナスとなっており、経営上の問題点として、原材料、外注費の高騰による資金難を挙げる事業所が多い。官工需要の停滞、業界の人手不足等地方建設業の抱える課題は多い。		売上について、回復傾向が見られるが、原材料の高騰、受注単価の競争等で採算面を考えると厳しい状況に変わりはない。来期の見通しも全ての項目でマイナスの見込みとなっている。今後の問題点として、熟練技術者の確保を挙げる企業も多く、企業が存続していくためにはしっかりと技術承継、人材育成が必須である。		売上について、今期状況、来期ともに悪化の傾向であり、採算については横ばい状態である。景気の回復感が出てきているが、仕入単価が上がっているにもかかわらず、販売単価に追加できない状況に変わりは無く、依然として厳しい状況が続いている。情報やサービスなど、商品価格以外で勝負できるものが企業には必要である。		売上、業況について、今期、来期ともに悪化の傾向である。経営上の問題点として、利用客の他地域への流出に加え、需要の停滞が挙げられる。年末商戦に向け行政、商工会議所発行のプレミアム付商品券により需要の底上げが行われるが、各個店自らも積極的な営業活動が必要である。		売上について、前期より大幅な悪化となったが、来期については忘年会シーズンによる需要が見込まれるため回復の見通しである。今後の課題として店舗設備の老朽化等を問題点として挙げている事業所が増えてきている。収益の悪化により設備投資まで資金が回せない状況が見て取れる。	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※()は前回調査時のD・I値